1-6.　電子圧力柱血圧計による血圧測定検証ワーキンググループ報告

リーダー　　研究分担者　大久保 孝義（帝京大学医学部衛生学公衆衛生学講座）
サブリーダー　研究分担者　岡村 智教　（慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学）
メンバー　　研究協力者　浅山 敬　　（帝京大学医学部衛生学公衆衛生学講座）

これまでの取り組み

1. 令和元年(2019 年)国民健康・栄養調査における電子圧力柱血圧計への変更後の血圧値低下の要因検証（前研究班）

(1)調査担当保健所アンケート調査

・電子圧力柱血圧計の事前取扱い練習の不足による速い減圧に起因する、血圧読み取り値の低下の可能性

・劣化した水銀血圧計の点検なし使用（水銀柱・ゴム管不純物のため高圧力必要）による過去調査血圧値の高め表示の可能性

(2)国民健康・栄養調査血圧データ比較: 平成 30 年(2018 年) vs 令和元年(2019 年)

令和元年(2019 年)調査における末端ゼロ値の割合が異様に高い：特に低い血圧値の部分

2. 対策：栄養指導室栄養調査係と連携

(1)令和 4 年(2022 年)国民健康・栄養調査(コロナ後血圧測定再開)以降（前研究班）

血圧測定時の留意事項に関するチラシ作成・配布

(2)令和 6 年(2024 年)国民健康・栄養調査（本研究班・前年度）

測定方法動画等提供、トレーニングの必須化

今年度の取り組み

血圧値分布・末尾ゼロ値頻度等が令和元年(2019 年)調査とどの程度異なるかを分析するため、令和 4，5 年(2022，2023 年)国民健康・栄養調査データの使用申請を行っている。

将来的には、動画視聴など測定者への注意喚起を行った令和 6 年(2024 年)以降の血圧値の推移を、令和 11 年(2029 年)頃にかけて検討し、令和時代の血圧値をどう評価するか、健康日本 21(第三次)評価に向けて、分析していくことが必要と思われる。

図8－2　年齢調整した、収縮期(最高)血圧の平均値の年次推移(20 歳以上)(平成 23 年～令和元年、4年、5年)

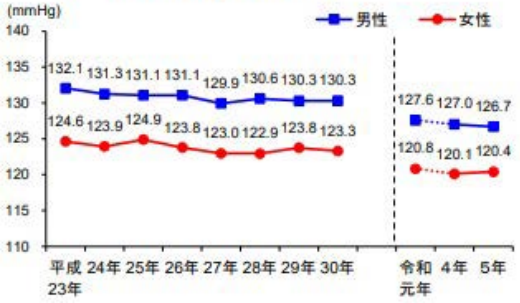


図9－2　年齢調整した、収縮期(最高)血圧が 140 mmHg 以上の者の割合の年次推移(20 歳以上)(平成 23 年～令和元年、4年、5年)

